

TICAD9 とスワヒリ語講座

TICAD とは、Tokyo International Conference on African Development (アフリカ開発会議)の略称で、1993 年以降、日本政府が主導するアフリカの開発をテーマとする国際会議のことです。その第 9 回目の会議 TICAD 9 が、今日から 3 日間の日程まで「革新的な課題解決策の共創」というテーマで横浜で開催されます。それに併せて、横浜市や JICA によってアフリカに関するいくつかの企画が実施されます。

ところで、中高生にとって学校の授業の中でアフリカについて学ぶ機会と言えば、せいぜい「歴史学習」におけるエジプトを中心とした古代史、19 世紀後半から 20 世紀前半の植民地時代、第二次世界大戦後の独立時程度でしょう。高校ではコラムでアフリカの古王国に触れる程度です。「地理学習」においても網羅的な学習方法から事例的学習に変わったため、「世界地誌」でも扱いは多くありません。人口・食糧問題、環境問題について学ぶことがほとんどです。それゆえ、未だにアフリカと言えば、熱帯の高温の地、経済発展から取り残された地として「上から目線」捉えている学生が少なくありません。それゆえ、アフリカ発展のためには援助や寄付などをすれば良いという単純な思考から離れられない学生もまだ多くおり、ケニアでは日本から援助として届く大量の古着の処理に困っているという話も耳にします。会議の持つ政治的経済的意義に加え、中高生には正しくアフリカを理解し、真のアフリカ像を学ぶ機会になればと願っています。

こうした中、7 月末に本校で開催された"A 知探 Q の夏"では、ケニア生活の経験のある私が、中学生を対象に『ライオン・キングから学ぶスワヒリ語講座』を開催しました。スワヒリ語とは、東アフリカのインド洋沿岸地域で生まれた言語で、アフリカのバントゥー系諸語をもとにアラビア語からの借用語を取り入れた言葉で、タンザニアとケニアでは公用語になっており、話し手は約 7 千万人と言われています。残念ながら日本でスワヒリ語が学べる大学は、大阪大学外国学部しかありません。そこで、ディズニー映画『ライオン・キング』の中で歌われる“Hakuna Matata.”ほか、ケニアでは誰もが知っている“Harambee”“Malaika”などの歌を手がかりにスワヒリ語の初歩を学びました。

石飛 一吉

参考資料

- 横浜市 TICAD9 特設サイト <https://ticad9.city.yokohama.lg.jp/>
- JICA イベント紹介 <https://ticad9event.jica.go.jp/index.html>
- NHK みみより！解説「若者たちが拓くアフリカと日本の未来」2025 年 7 月 31 日放送、<https://www.nhk.jp/p/ts/X67KZLM3P6/episode/te/5ZWKP4YP87/>